

地域のたから  
自慢の逸品

「案内の湯豆腐」

● 仙台市博物館学芸員 佐々木徹

塩竈街道上の要地 案内

案内とは、曹洞宗大蓮寺や東仙台中学校などがある現在の宮城野区東仙台あたりを指す地域です。江戸時代には小田原村の東端にあつて、仙台城下の榴岡から原町を経て塩竈・松島へ向かう塩竈街道（おおよそ現在の県道仙台松島線）上にあつた場所でした。そのため塩竈参詣や松島遊覧、狩猟の際の藩主の休息所としても利用され、往来する文人墨客や旅人らもここで度々足を休めていたことで有名です。

狩猟をよく好んだ初代仙台藩主の伊達政宗も、慶長一八年（一六一三）の鷹狩りの際に「宮城郡案内」で「御弁当」を食べたとする記録が残っています。のちに毎年正月の狩猟行事として恒例化する仙台藩の御野



案内の茶屋のようす（『奥州仙台名所尽集』仙台市博物館蔵）

案内の茶屋のようす（『奥州仙台名所尽集』仙台市博物館蔵）  
寛政一〇年（一七九八）、仙台藩領内の物産を紹介するために記された『封内土産考』にも「案内の湯豆腐」が出てきますし、江戸

始では、藩主らが岩切方面へと向かう途中、一騎打の儀式を行う重要な場として位置付けられていました。また仙台藩には、他領および領内の物資の移出入に課された仲役という取引税がありました。幕末にはこの税を徴収する役所の下部機構（御仲下改所）が、原町・案内など六カ所に設置されました。

案内の地が、塩竈街道上の交通の要地であつたことがこれらの事例からもうかがえます。

仙台藩の名物 案内の湯豆腐

江戸時代の案内には、塩竈街道に面して三軒の茶屋がありました。そのうちの一番軒が、案内名物の湯豆腐を出した菅野屋卯兵衛でした。菅野屋の湯豆腐は、七代藩主伊達重村から「名物」の号を賜つたといひ、歴代藩主は案内を通る時に菅野屋で休息するのを慣例としていたともいわれています。

寛政一〇年（一七九八）、仙台藩領内の物産を紹介するために記された『封内土産考』にも「案内の湯豆腐」が出てきますし、江戸

時代後期に作られ、仙台から塩竈・松島に至る道筋の名所風景を絵と和歌で紹介した『奥州仙台名所尽集』にも、案内の茶屋が取り上げられています。「名物の豆腐にうえてけむりをハ ふとくもたつる あんなの茶屋」とする同書の句にもあるように、案内といえは湯豆腐が名物であるという認識が江戸時代後期には定着していたことが知られます。最後の仙台藩主である伊達慶邦もまた、「仙台城下より塩竈へ行、往來の駕籠立場に案内といふ所あり、其所に名物の湯豆腐あり」と記しています（『やくたい草』）。

塩竈街道という観光コースに位置する案内の茶屋と湯豆腐は、文人墨客や旅人らが何度も舌鼓をうつことで、名物としての知名度を高めていったのでしょう。

よみがえつた案内の湯豆腐

このような歴史をもつ案内の名物湯豆腐ですが、近年まで絶えて久しい状況が続いていました。

ところが最近、食による地域ブランド化を目指して、地元の方々が中心となつて復活させようとする取り組みが動き出しました。藩政時代から湯豆腐を提供してきた菅野家の関係者から聞き取りを行うなどして、その再現が試みられたそうです。それによれば、縫い糸のように細く切られたたくさんの豆腐を器の中心に盛り、豆腐がふわっと浮き上がるようにお湯を回し入れ、そこへ柚子・鰯節を入れて醤油をたらし、これを汁物のように食すのが特徴だといひます。こうした取り組みがもとつと話題になり、再び仙台名物となる日が本当に楽しみます。

宇和島市指定文化財 藍白地着返小桜奉幸威徳  
伊達宗紀所用（公財）宇和島伊達文化保存会蔵

華やかな大名文化や、仙台伊達家との関係を伝える貴重な資料をご紹介します。

西国の伊達 宇和島伊達家に伝来する貴重な文化財がはるばる仙台にやってくる！

歴史姉妹都市締結40周年記念 特別展

## 宇和島伊達家の名宝

— 政宗長男・秀宗からはじまる 西国の伊達 —

**10/9(金)~11/23(月・祝)**  
※会期中、一部展示替えを行います。

【観覧料】 一般：1,100円 大学・高校生：600円  
小・中学生：300円

■主催：仙台市博物館 ■共催：河北新報社、TBC東北放送  
■特別協力：（公財）宇和島伊達文化保存会、宇和島市立伊達博物館、瑞蔵寺

「仙台市史」編さん事業の機関誌最新号  
「市史せんだい」Vol.25  
好評発売中！

平成27年3月をもって終了した仙台市史編さん事業の25年間を、執筆者と編さん室員のコメントなどで振り返る第1特集。そして戦後70年に関連した第2特集では、「軍部仙台」の呼称についての考察、仙台空襲後の市街地写真を紹介しします。

そのほか、大正期に構想されながらも実現に至らなかった仙台周辺の鉄道を取り上げた論考「幻の鉄道」、史料紹介「伊達政宗文書・補遺（九）」を収録。

A5判 128頁  
定価 500円(税込)  
お求めは：仙台市博物館  
ミュージアムショップ

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM 開館時間：午前9時～午後4時45分（最終入館午後4時15分）●10月の休館日：毎週月曜日（10/12は開館）  
TEL:022-225-3074 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地（仙台城三の丸跡） http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/